

令和元年度

学校だよりR元. 12. 12



# かわさき

第 37 号

川崎小学校

文責 校長

## 明日は家族読書&メディアコントロールの目

いつも子どもたちの読書生活の充実に、ご協力をいただき、ありがとうございます。この家族読書を、各ご家庭の楽しい家族団らんにつなげていただければ幸いです。また、先月から取り組み始めた「メディアコントロール」についてもご協力をいただきありがとうございます。

さて、私は去る11月16日(土)に二本松北小学校向かいにある福島県男女共生センターで開かれたある講演会に出席しました。講師は郡山女子大学の堀 琴美 先生です。内容は児童虐待に関するお話ですが、その中にメディアが子どもたちに与える影響についての内容もありました。その中で、堀先生はアメリカの陸軍中佐で軍事学校の心理学者であるデーヴ・グロスマンが書いた「Stop Teaching Our Kids to Kill」(子どもたちに殺しを教えるのをやめよう)という本を引用し、次のように話されました。

<堀先生の話から>

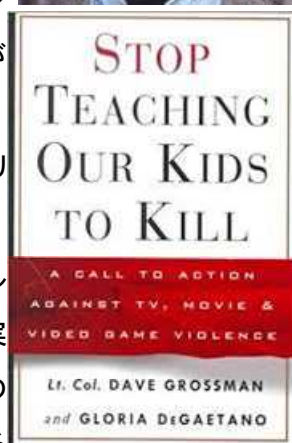
「筆者は、ある時、戦場で戦う兵士を訓練するためのシミュレーションプログラムと、現在、子どもたちが遊んでいるシューティングゲームが全く同じことに気付き驚いたそうです。画面の中で、敵の人物が動き、話し、それを倒す。コンピュータグラフィックスにより、それらが高いリアリティをもって子どもたちの経験となり積み重ねられる。その結果、子どもたちは、相手を破壊することを何とも思わなくなる。それを楽しみ、熱狂し、肯定し、尊敬される。現実にはどんな甚大な被害でも、実感が伴わない状態になるということです。この本は、これらゲーム内の暴力やテレビ・映画・ビデオの暴力に対抗する行動をよびかけているのです。」

【この本はまだ、日本語に翻訳されていないようです。】

ゲームが人の脳にどのような影響を与えるのかについては、今後、ますます明らかにされていくことでしょう。

是非、明日はゲームなどのメディアから離れて、ご家族で読書の時間をお過ごしください。

【裏面もご覧ください】



# 11月の家族読書カードから

題名：ありこちゃんのおてつだい

1年 安齋 隼平

おねえさんのしごとで、あぶらむしのみつをたどれなくても、おてんとさんのおかげでかえれて、よかったです。

【母】はじめてのおつかいで、幼虫にみつをあげるために、たくさんのできごとが起こっても、無事にみつを持って帰ることができました。

隼平のはじめてのおつかいは何にしようかな。

題名：バーバパパ

2年 遠藤 愛奈

わたしはバーバパパを読みました。バーバパパは、家が火じになったときに、かいだんになったのがすごいなあと思いました。

【母】私も小さい頃にバーバパパの本を読んだことがあります。バーバパパの力強いところややさしいところがステキだと感じました。

題名：ゆうびんやさんのホネホネさん

3年 安齋 遼汰

ほねほねさんがどこでも行けるのがすごい。

【母】どこでも郵便を配達してくれるホネホネさんに、最後はたくさんの人から手紙が届くのがいいなあと思いました。

題名：ピワイチ

4年 安齋 陽翔

ぼくは、この「ピワイチ」という本で、びわこを一周すると書いてあって、すごいなと思いました。それで、この本の主人公が一周できるか楽しみです。

【母】小学6年生で、びわ湖を一周するというチャレンジがすごいと思います。何かやってみたいと思わせてくれる話でした。

題名：ドラゴンの飼い方

5年 遠藤 太吾

いろいろなドラゴンの飼い方や神話生物の飼い方がのっていておもしろい本でした。

【母】本当にドラゴンが飼えそうでおもしろかったです。

題名：君たちに伝えたいこと

6年 喜古 心優

私は、この本を読んで少し気持ちが変わりました。少し長いけど、私は死ぬまで自分がやりたいことをして満足なら良いと思っていたけど、死ぬまでに少しでも自分だけじゃなく、人のために何かできたら良いなと思いました。人が喜んでくれることを一生けん命したいです!!

【母】とてもよいお話でした。このような本と出会えたなら、もしかすると人生が少しだけ変わっていたのかもしれない。心にひびく本でした。